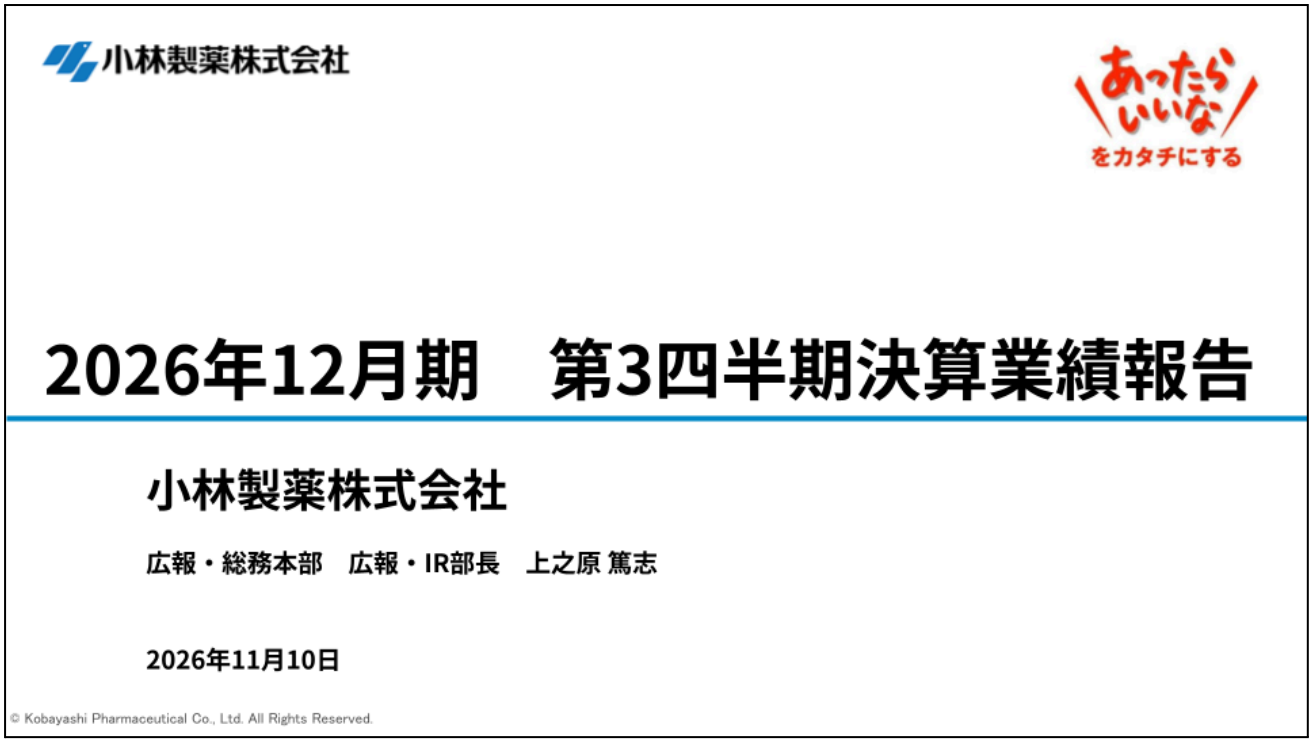
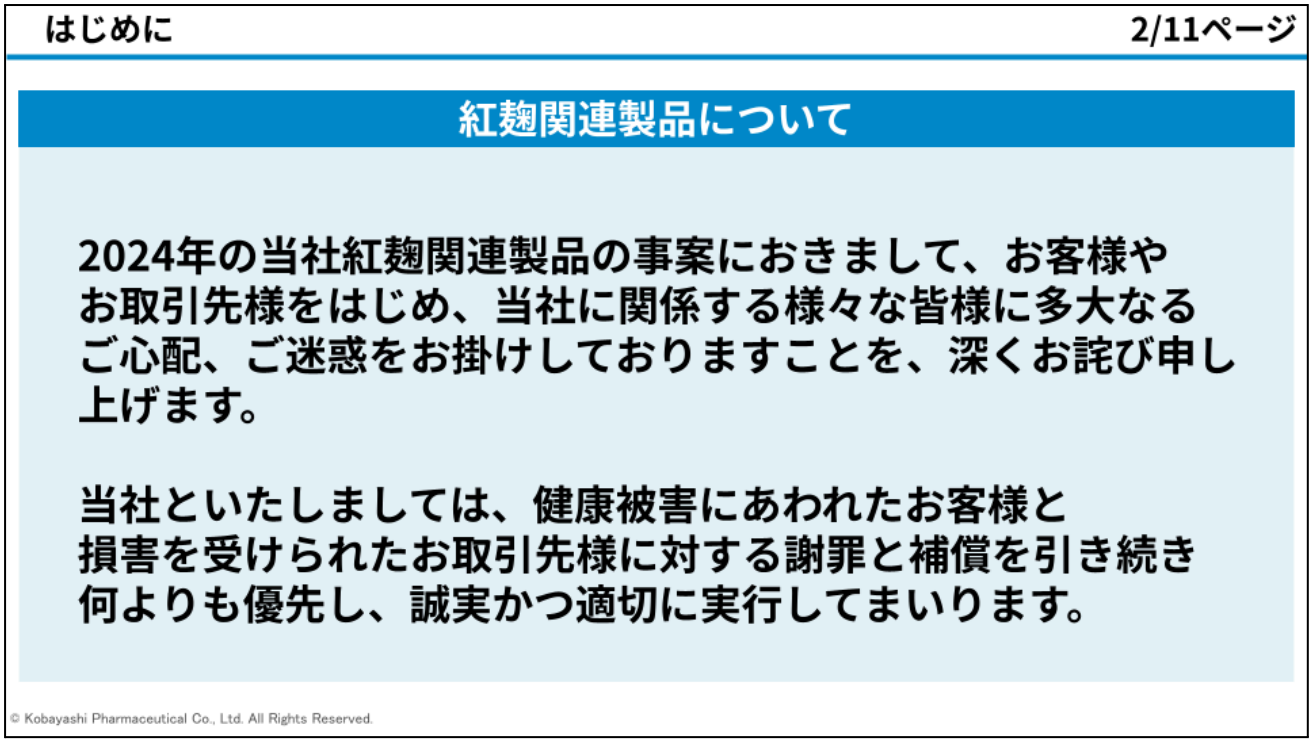
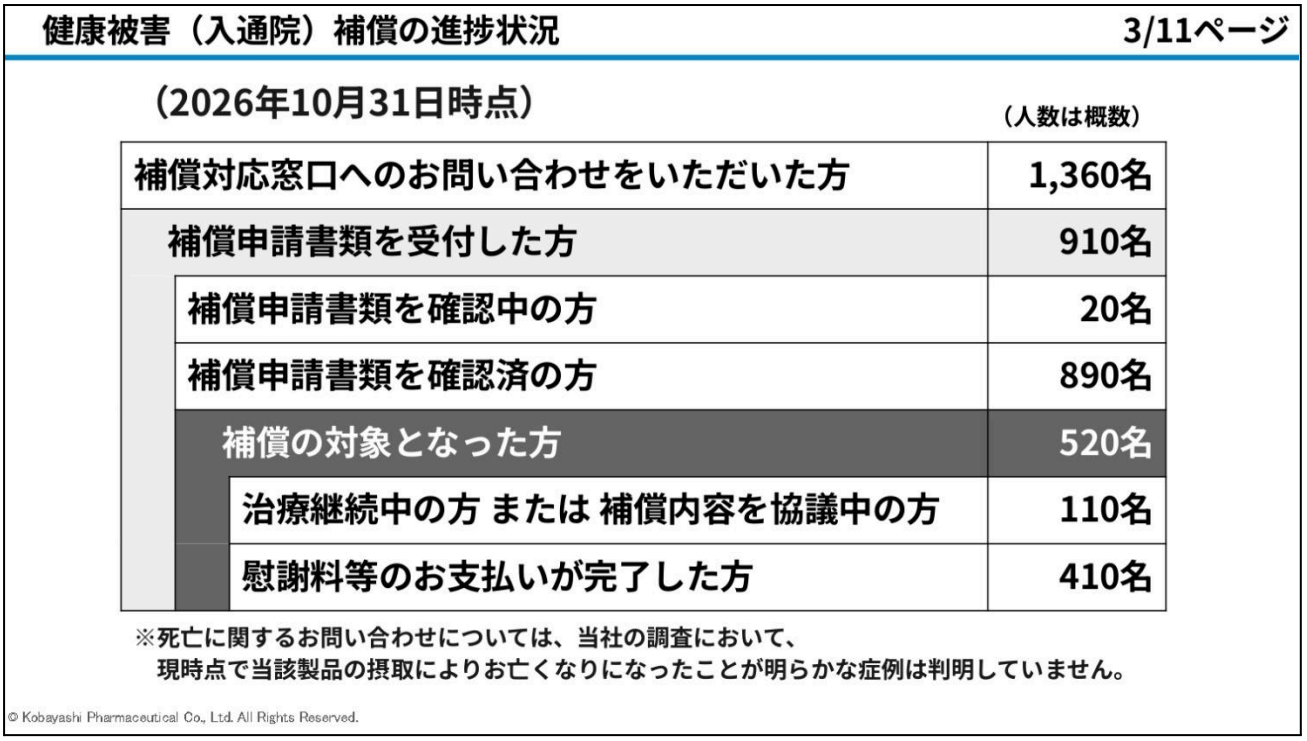


広報・IR部の上之原です。 2026年12月期第3四半期の業績について、ご説明いたします。



当社は、2024 年の紅麹事案で健康被害にあわれたお客様と損害を受けられたお取引先様に対する謝罪と補償を、引き続き最優先で取り組んでおります。



補償の進捗状況です。

2026年10月31日時点で、上から5行目、補償の対象となった方が約520名、そのうち8割近い約410名の方に対して、慰謝料等の支払いが完了しております。



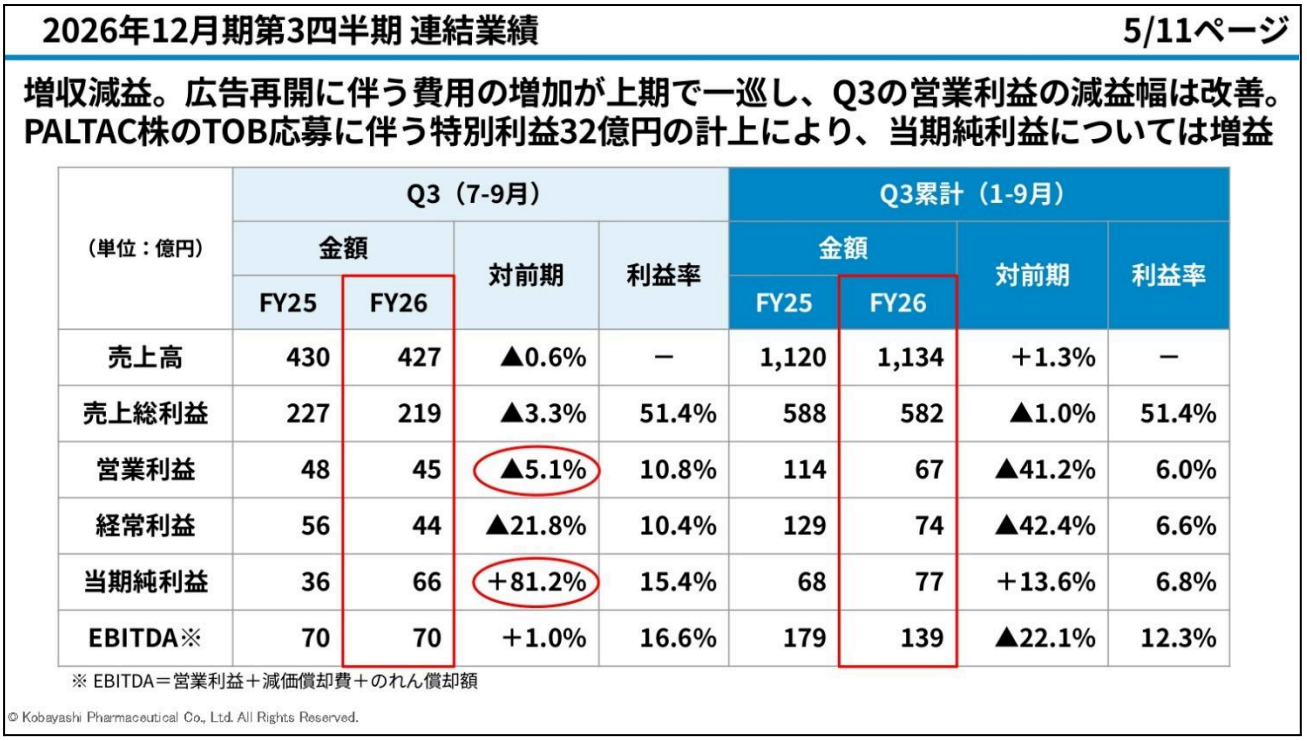
第3四半期の業績サマリーです。

連結の売上高につきましては、第3四半期累計で 1,134 億円、対前期比でプラス 1.3%の増収となりました。

国内事業は前年上期に広告を自粛しており、今期はその反動もあって主力製品群が堅調に推移しました。一方で、第2四半期から続く中東情勢の影響や季節品の低調に加え、自社通販終了の影響等により減収となりました。

国際事業につきましては、米国において医薬品の製造委託先を変更し、それに伴う一時的な出荷抑制の影響により減収となりました。一方で、中国大陸は第2四半期に引き続き熱さまシートやアンメルツを中心に大幅増収となり、東南アジアも熱さまシートやアンメルツが堅調に推移しており、国際事業トータルでは増収となっております。

営業利益につきましては、国内は前年上期の広告自粛の反動で広告費が大幅に増加したことにより減益となりました。しかし、計画対比では、売上の35億下振れに伴う粗利悪化は、全社的な経費抑制等でカバーし、計画よりも約5億円上振れて着地しております。



2026年12月期第3四半期 連結業績 5/11ページ

増収減益。広告再開に伴う費用の増加が上期で一巡し、Q3の営業利益の減益幅は改善。
PALTAC株のTOB応募に伴う特別利益32億円の計上により、当期純利益については増益

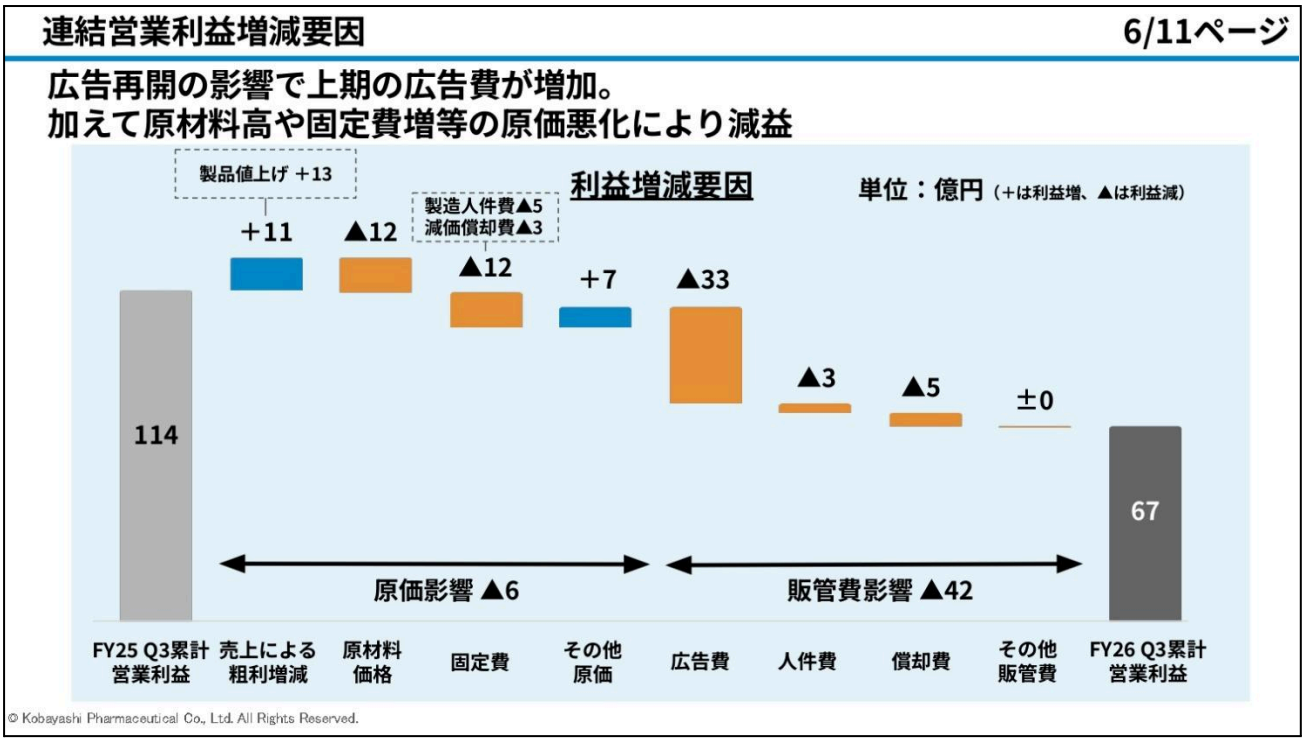
（単位：億円）	Q3（7-9月）				Q3累計（1-9月）			
	金額		対前期	利益率	金額		対前期	利益率
	FY25	FY26			FY25	FY26		
売上高	430	427	▲0.6%	－	1,120	1,134	+1.3%	－
売上総利益	227	219	▲3.3%	51.4%	588	582	▲1.0%	51.4%
営業利益	48	45	▲5.1%	10.8%	114	67	▲41.2%	6.0%
経常利益	56	44	▲21.8%	10.4%	129	74	▲42.4%	6.6%
当期純利益	36	66	+81.2%	15.4%	68	77	+13.6%	6.8%
EBITDA※	70	70	+1.0%	16.6%	179	139	▲22.1%	12.3%

※ EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

© Kobayashi Pharmaceutical Co., Ltd. All Rights Reserved.

連結業績の詳細です。
第3四半期累計では、売上高は 1,134 億円でプラス 1.3%、営業利益は 67 億円でマイナス 41.2%となっております。

第3四半期単体では、売上高は427億円で、対前期比マイナス0.6%。営業利益は45億円でマイナス5.1%となり、広告再開に伴う費用の増加が上期で一巡したことで、営業利益の減益幅は大幅に改善しております。また、PALTAC株のTOB応募に伴う特別利益32億円を計上したことにより、当期純利益につきましては+81.2%と大きく増益となっております。



連結営業利益の増減要因です。

前期の114億円から今期の67億円へ減少しました。広告再開の影響で上期の広告費が増加したことに加えて、原材料価格の上昇や固定費の増加により原価が悪化したことが主な要因です。

国内事業（カテゴリー別業績）　7/11ページ

Q3は、昨年7月の広告再開による効果が一巡したものの、主力製品群は引き続き堅調に推移。一方、季節品（風邪関連・暑さ対策製品）の低調に加え、今秋値上げをした一部製品において流通在庫の調整が発生（店頭消化は底堅く推移）し、減収

※カッコ内は旧通販品を除く数字

（単位：億円）		Q3（7-9月） 金額 FY25	Q3（7-9月） 金額 FY26	Q3（7-9月） 対前期	Q3累計（1-9月） 金額 FY25	Q3累計（1-9月） 金額 FY26	Q3累計（1-9月） 対前期
売上高	ヘルスケア	150 (142)	143 (142)	▲4.8% (▲0.1%)	437 (414)	435 (433)	▲0.4% (＋4.6%)
	日用品	140	134	▲3.9%	361	355	▲1.8%
	カイロ	6	4	▲21.8%	15	12	▲22.9%
	合計	297 (289)	283 (282)	▲4.7% (▲2.4%)	814 (792)	803 (801)	▲1.4% (＋1.1%)
営業利益計		34	33	▲3.5%	116	76	▲34.5%
率		11.7%	11.9%	ー	14.3%	9.5%	ー

インバウンド売上（Q3累計）

2025年	2026年
34億円	37億円

好調製品例

1滴消臭元　ブレスケア



© Kobayashi Pharmaceutical Co., Ltd. All Rights Reserved.

国内事業のカテゴリー別業績です。
第3四半期累計の国内事業売上高は803億円、対前期マイナス1.4%でしたが、旧通販品を除く国内全体の売上高はプラス1.1%の増収を確保しております。

第3四半期単体では、昨年7月の広告再開による効果が一巡したものの、主力製品群は引き続き堅調に推移しました。一方で、風邪関連や暑さ対策製品といった季節品の低調に加え、今秋値上げをした一部製品において、店頭消化は底堅く推移しているものの、流通在庫の調整が発生し、減収となっております。

インバウンド売上は第3四半期累計で前年の34億円から37億円へと伸長いたしまして、「1滴消臭元」や「ブレスケア」などの製品が好調でした。

営業利益につきましては、第3四半期累計で対前年比マイナス34.5%の76億円、利益率は9.5%となっております。これは先ほどご説明しましたとおり、広告再開や原材料高・固定費増などが大きく影響し、減益となっております。

国際事業（地域別業績）　8/11ページ

増収減益。米国の減収を他の国・地域がカバー
（為替影響：売上高＋26億円、営業利益＋7億円）

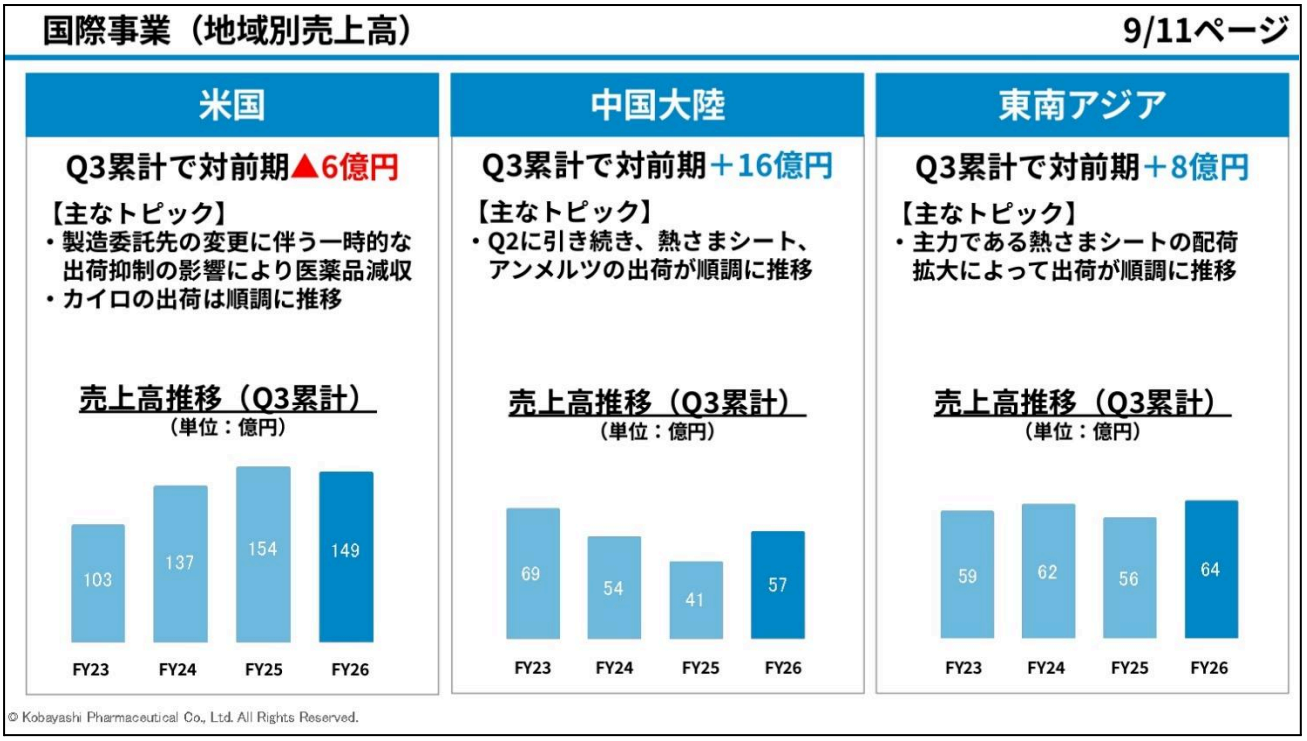
（単位：億円）		Q3（7-9月）				Q3累計（1-9月）			
		金額		対前期		金額		対前期	
		FY25	FY26	為替込	為替除	FY25	FY26	為替込	為替除
売上高	米国	75	76	＋1.3%	▲5.7%	154	149	▲3.7%	▲9.9%
	中国大陸	16	22	＋30.6%	＋16.0%	41	57	＋38.5%	＋24.6%
	香港地域	7	8	＋22.3%	＋13.7%	19	22	＋17.4%	＋10.2%
	東南アジア	20	24	＋16.4%	＋9.0%	56	64	＋13.9%	＋4.3%
	その他	10	10	＋4.7%	▲3.8%	29	33	＋14.1%	＋2.6%
	国際計	131	142	＋8.9%	▲4.1%	301	326	＋8.5%	±0%
営業利益計		12	12	▲5.5%	▲20.2%	▲2	▲9	ー	ー
率		9.8%	8.5%	ー	ー	ー	ー	ー	ー

© Kobayashi Pharmaceutical Co., Ltd. All Rights Reserved.

続いて、国際事業の地域別業績です。
第3四半期累計の国際事業の売上高は326億円、対前期比プラス8.5%の増収となりました。 為替による押上げ効果もございましたが、全体としては米国の減収を他の国や地域がカバーする形となりました。

地域別の売上高を見ますと、米国は為替を除いたベースでマイナス9.9%の減収となりました。しかし中国大陸は為替を除いて対前期比プラス24.6%と大きく伸長し、東南アジアもプラス4.3%と堅調に推移しております。さらに香港地域やその他の地域も、プラス成長を維持しました。

営業利益については第3四半期単体では12億の黒字、第3四半期累計では9億の赤字で着地しております。



地域別の売上高のハイライトです。
米国は第3四半期累計で対前期マイナス6億円となりました。製造委託先の変更に伴う一時的な出荷抑制の影響により医薬品が減収となりましたが、カイロの出荷は順調に推移しました。 中国大陸は対前期プラス16億円となり、第2四半期に引き続き熱さまシート、アンメルツの出荷が順調に推移しております。
東南アジアは対前期プラス8億円となり、主力である熱さまシートの配荷拡大によって出荷が順調に推移しました。

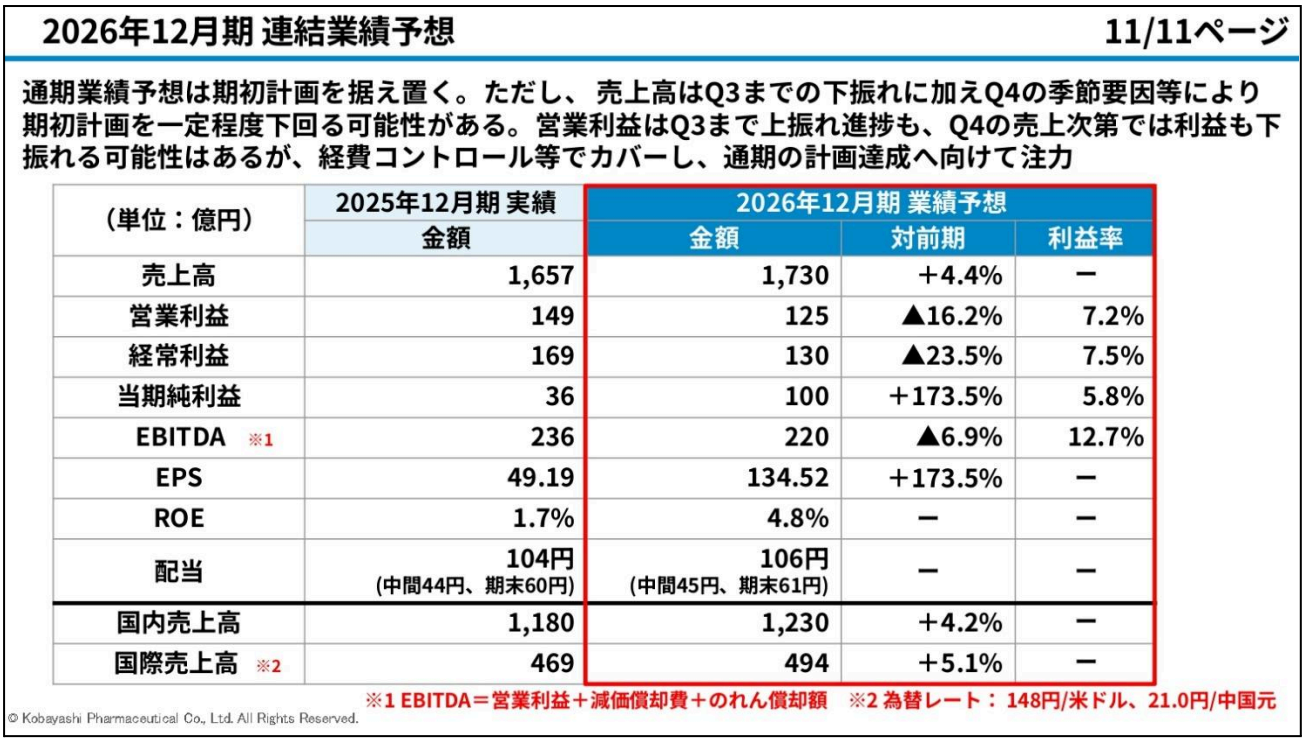
中東情勢の影響（2026年10月31日時点）　10/11ページ

売上、営業利益の影響額についてはQ2より変更なし。
Q3までの営業利益影響（▲10億円）は、経費コントロールを中心にカバー。
Q4も下記対応策を実施することで影響を最小限に抑える

サプライチェーン影響	以下の原材料を中心に、値上げ要請が継続。調達遅れや制限については解消 ・容器包装資材（ボトル、フィルム等） ・石油化学系原料（アルコール類、界面活性剤等）
事業影響	・定番品の出荷抑制（主にQ2のみ）、企画品中止、秋新製品の発売延期等による販売機会損失 ・原材料の値上げ要請に伴うコストアップ
影響額（期初計画からの差異）	・売上高　：　▲10億円（Q3累計：▲ 8億円、Q4：▲ 2億円） ・営業利益：　▲20億円（Q3累計：▲10億円、Q4：▲10億円） 主な対応策 ・製品価格の適正化 ▶追加値上げ実施（8、9月出荷分より）例：カイロ、液体ブルーレット  ・経費コントロール 営業利益への影響額▲20億は、追加で実施した製品値上げ＋5億（主にQ4）、経費コントロール＋15億でカバーする予定

© Kobayashi Pharmaceutical Co., Ltd. All Rights Reserved.

中東情勢の影響につきましては、影響額について第2四半期より変更はございません。通期の影響額は売上高マイナス10億円、営業利益マイナス20億円です。営業利益については第3四半期までにマイナス10億円の影響を受けましたが、経費コントロールを中心にカバーしました。第4四半期の影響額はマイナス10億円を見込んでいますが、8月、9月出荷分より追加で実施をしている製品値上げと経費コントロールにてカバーする予定です。



2026年12月期 連結業績予想

11/11ページ

通期業績予想は期初計画を据え置く。ただし、売上高はQ3までの下振れに加えQ4の季節要因等により期初計画を一定程度下回る可能性がある。営業利益はQ3まで上振れ進捗も、Q4の売上次第では利益も下振れる可能性はあるが、経費コントロール等でカバーし、通期の計画達成へ向けて注力

（単位：億円）	2025年12月期 実績	2026年12月期 業績予想		
	金額	金額	対前期	利益率
売上高	1,657	1,730	+4.4%	ー
営業利益	149	125	▲16.2%	7.2%
経常利益	169	130	▲23.5%	7.5%
当期純利益	36	100	+173.5%	5.8%
EBITDA ※1	236	220	▲6.9%	12.7%
EPS	49.19	134.52	+173.5%	ー
ROE	1.7%	4.8%	ー	ー
配当	104円 (中間44円、期末60円)	106円 (中間45円、期末61円)	ー	ー
国内売上高	1,180	1,230	+4.2%	ー
国際売上高 ※2	469	494	+5.1%	ー

※1 EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額　※2 為替レート： 148円/米ドル、21.0円/中国元

© Kobayashi Pharmaceutical Co., Ltd. All Rights Reserved.

最後に、2026年12月期の連結業績予想についてです。
通期の業績予想は期初計画を据え置きます。
ただし、売上高につきましては、第3四半期までの下振れに加え、第4四半期も季節要因等がありますので、期初計画を一定程度下回る可能性があります。

営業利益については、第3四半期まで上振れて進捗しておりますが、第4四半期の売上次第では利益も下振れる可能性があります。しかしながら、経費コントロール等でカバーし、通期の計画達成へ向けて注力してまいります。

説明は以上となります。ありがとうございました。